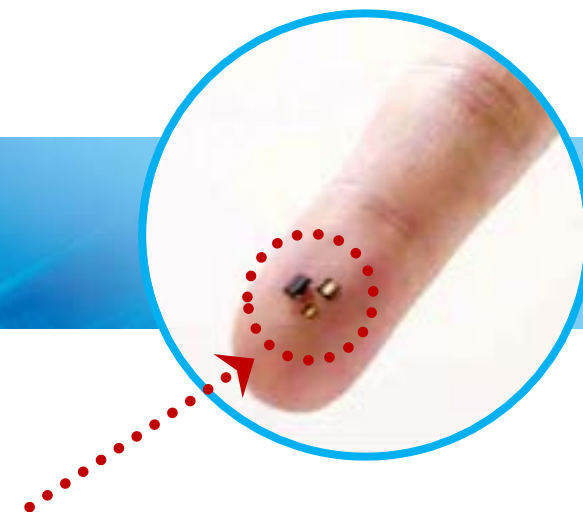


トレックス・セミコンダクター株式会社

第20期（2015年3月期）第2四半期 決算説明資料



私たちトレックス・セミコンダクターは

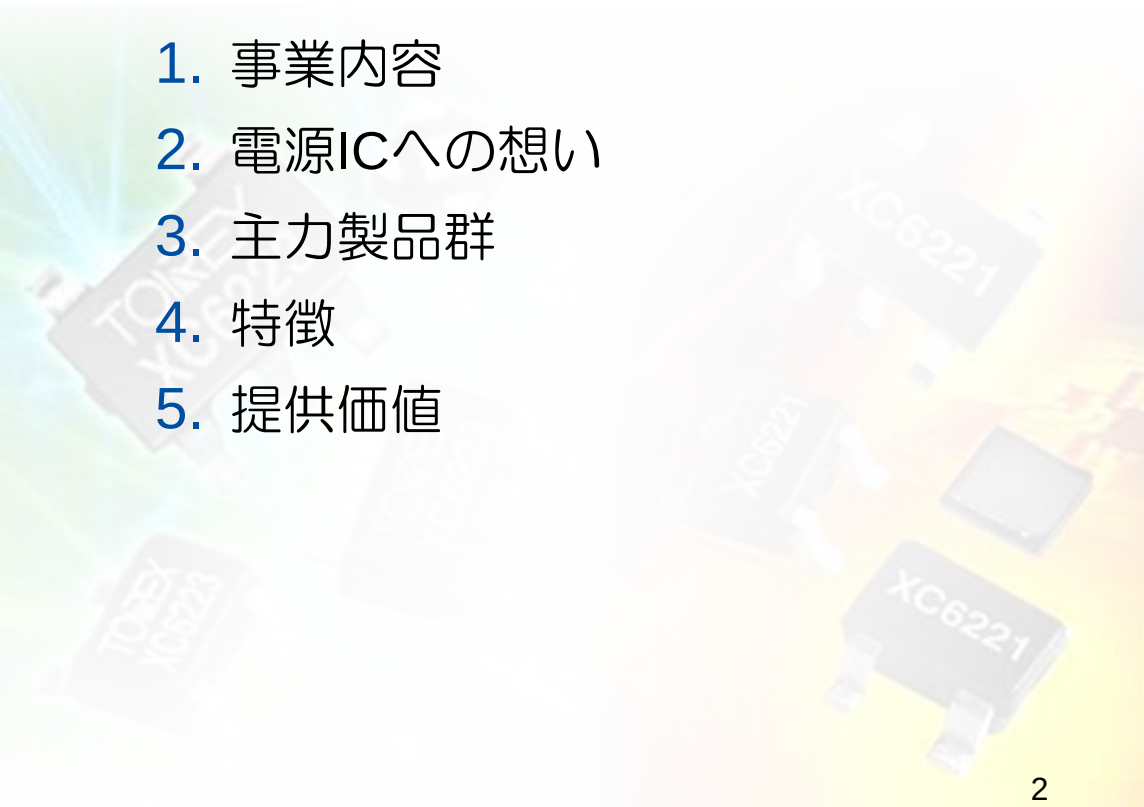
小型化・省電力化で

豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献します

2014年11月18日

内容	頁	内容	頁
1. 会社概要	2	4. 第20期（2015年3月期）通期予想	23
1-1. 事業内容	3	4-1. 概況 P/L及び主要指標	24
1-2. 電源ICへの想い	4	4-2. 地域セグメント別予想	25
1-3. 主力製品群	5	4-3. アプリケーション別予想	26
1-4. 特徴	6	5. 今後の経営計画	27
1-5. 提供価値	9	5-1. 中期経営目標	28
2. 市場動向	13	5-2. 地域セグメント別売上	29
2-1. アナログIC市場規模	14	5-3. アプリケーション別売上	30
2-2. アナログ電源IC市場規模	15	5-4. 主な取組み方針	31
2-3. 当社の位置付け	16	6. 還元方針	32
3. 第20期（2015年3月期）2Q 業績	17	6-1. 基本方針	33
3-1. 概況 P/L及びB/S	18	6-2. 配当額と配当性向	34
3-2. 地域セグメント別実績	20	エレクトロニカ速報	35
3-3. 製品群別実績	21		
3-4. アプリケーション別実績	22		

1. 会社概要

- 
- 1. 事業内容
 - 2. 電源ICへの思い
 - 3. 主力製品群
 - 4. 特徴
 - 5. 提供価値

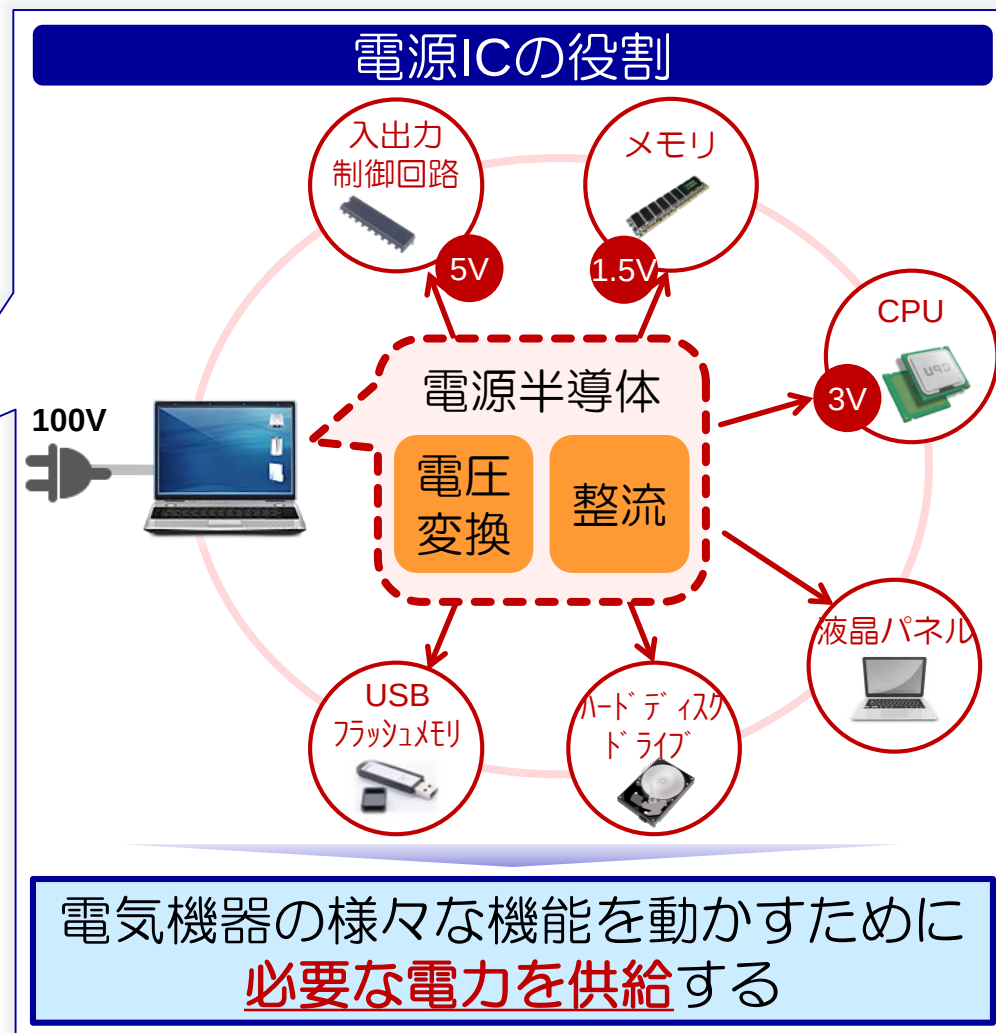
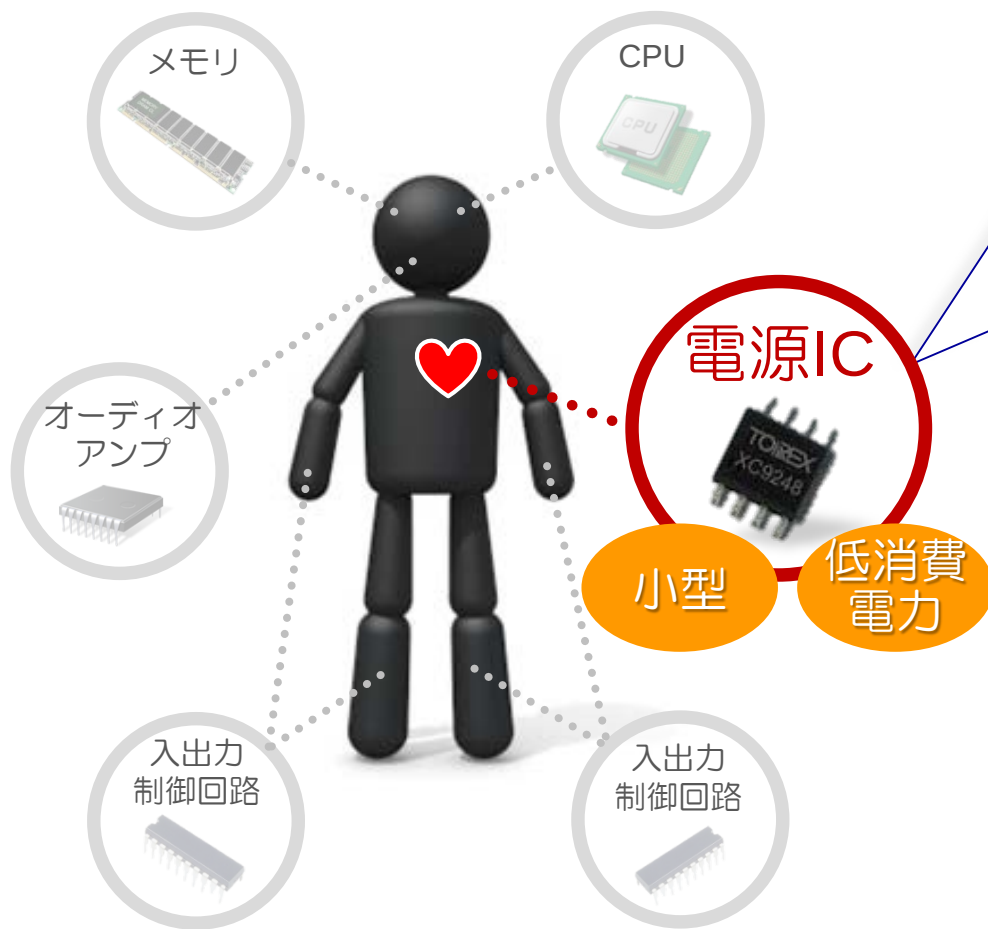
1	会社概要
2	市場動向
3	2015年3月期 2Q 業績
4	2015年3月期 通期予想
5	今後の経営計画
6	還元方針

1. 会社概要

1-1. 事業内容

- 電気機器の「心臓」の役割を担う、小型・低消費電力（業界トップクラス）の電源ICを開発・販売しています。

半導体の種類（例）



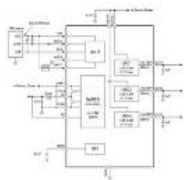
1. 会社概要

1-2. 電源ICへの想い

- 電気機器の小型化・省電力化に“電源”という観点から貢献することで企業理念の体現を目指しています。

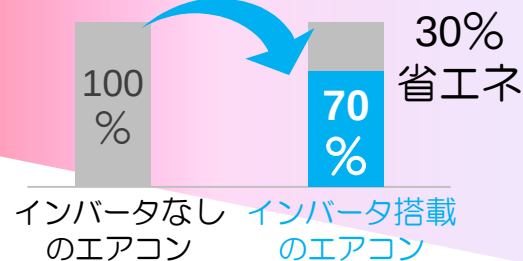
回路設計

部品配置最適化
回路構成をツツルに



省電力化

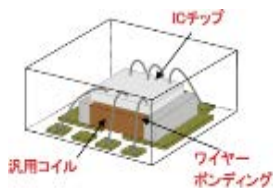
エアコンの消費電力量



【出典】ダイキンHPより

パッケージ

部品を集約
放熱性能を向上



小型化



機器の小型化



理念

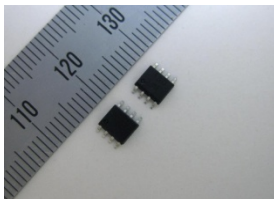
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献

1. 会社概要

1-3. 主力製品群

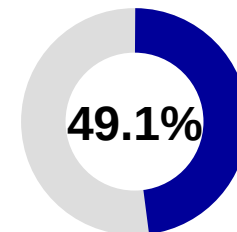
- VR、DC/DC、VDが当社の主力製品です。

VR

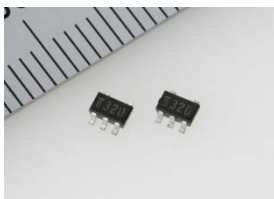


Voltage Regulatorの略（電圧レギュレータ）
入力電圧を希望の出力電圧に変換

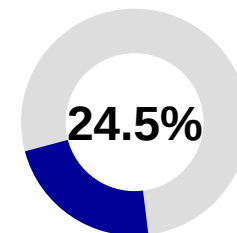
（2014年3月期実績）



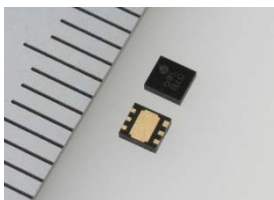
DC/DC



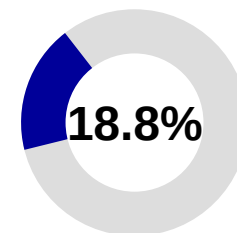
DC/DC Converterの略
出力電圧が常に一定となるように制御



VD



Voltage Detectorの略（電圧検出器）
入力電圧を常に監視
設定電圧以下となった時にアラームを出す



1. 会社概要

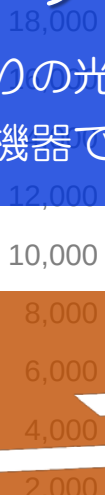
1-4. 特徴①：安定成長企業

- 着実に一つ一つの商談を積み重ね、堅実に成長していく企業です。



世界はアナログでできている

身の回りの光・音・電気は全てアナログ
全ての機器でアナログ処理が必要



一つ一つの商談の積み重ね

ライフサイクルは長いもので20年以上
一つ一つの商談が安定売上を創り出す



電子化の進展

機器の高性能化に伴う電子化が進展
必要となる電源ICの種類・数も増大



堅実な成長の実現

不採算取引の見直しと、高付加価値
領域へのシフトで収益を安定化

1-4. 特徴②：プロフェッショナル集団

- 開発、販売にアナログ技術のプロフェッショナル集団を有しています。

回路設計に踏み込んだ提案

開発-FAE(*1)による営業サポートの下、
アナログ電源を知り尽くした営業集団が
ソリューションとしての製品提案を実施しています

(*1) Field Application Engineer (技術営業)



開発

製造

検査・物流

販売

サービス



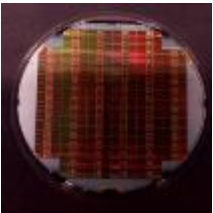
アナログ電源IC設計に特化

1995年の創業から、アナログ電源ICという
一つの分野を突き詰めてきたことで、
高い専門性を有しています

1. 会社概要

1-4. 特徴③：ファブレス

- 前工程をファブレスとすることで、経営環境の変化に対する柔軟性を確保しています。

概要		選択肢	Quality	Cost		Delivery		狙い
			品質	原価	投資額	納期	新技術 対応期間	
前工程	 シリコン基板に回路を作り込む	自社所有	○	△	×	○	×	多額の設備投資等、柔軟な意思決定の阻害要因を排除
		ファブレス	△	○	○	△	○	
後工程	 作り込まれた回路をパッケージに封入	自社所有	○	△	△	○	○	
		ファブレス	△	○	○	△	△	

当社の選択

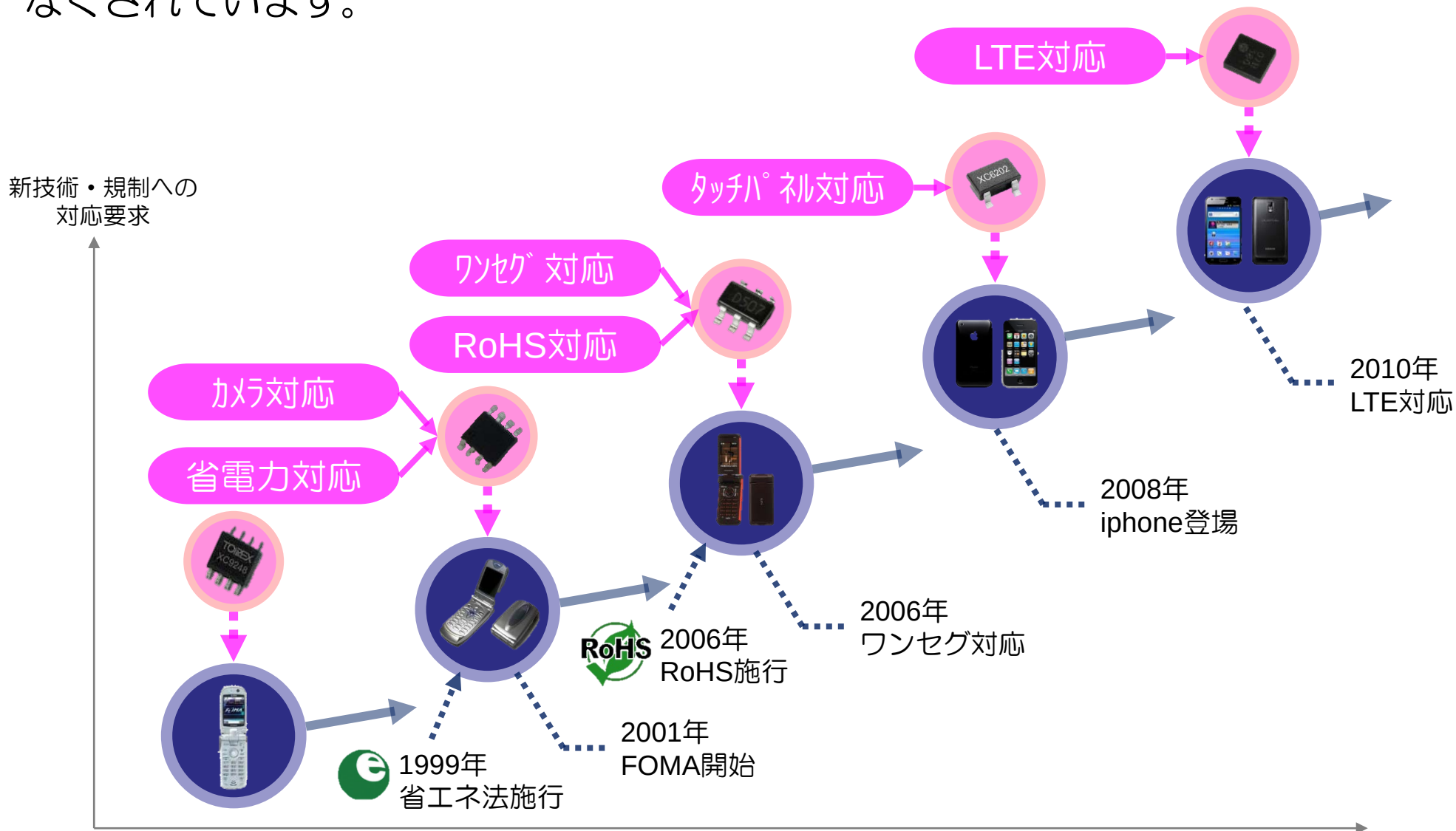
1-5. 提供価値 (1/4)

- 電気機器の電源回路設計の難易度が高いため、電源半導体は長期間使われ続ける傾向があります。



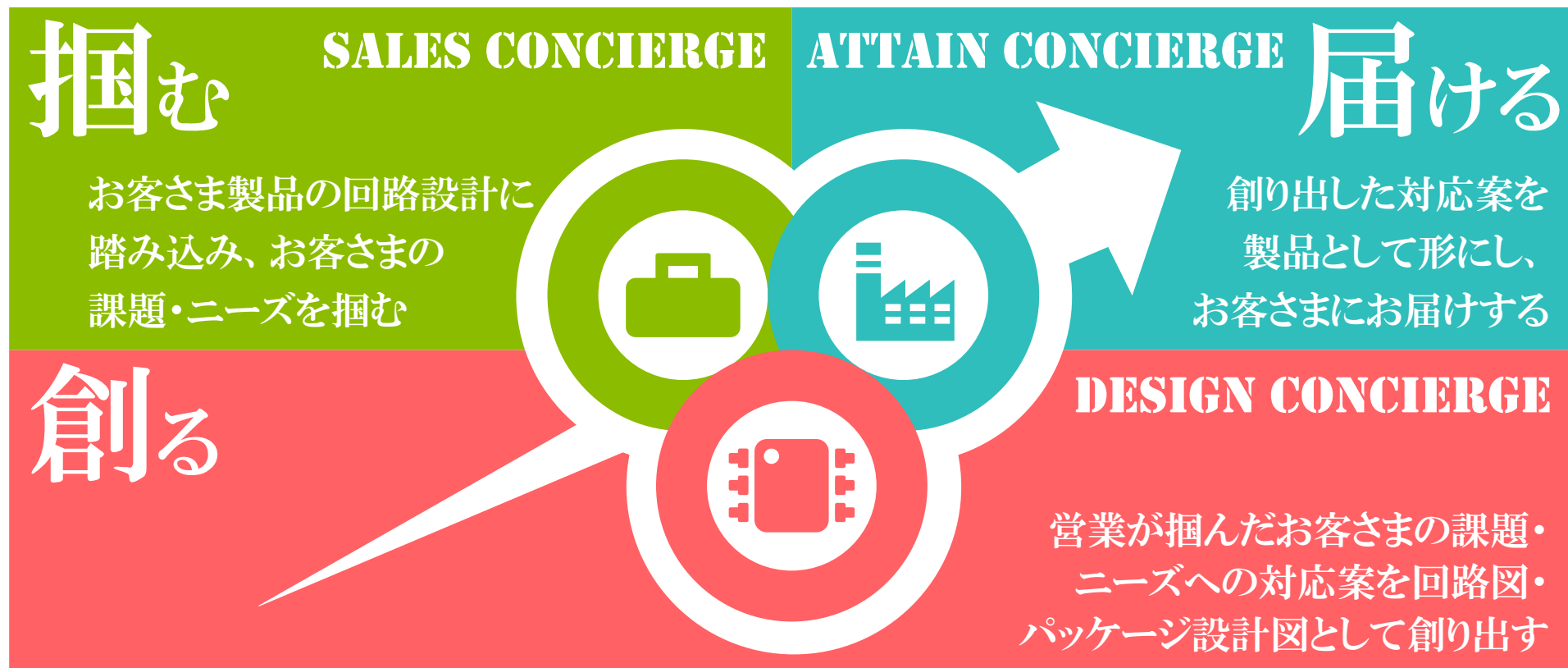
1-5. 提供価値 (2/4)

- 様々な業界では、新技術・規制対応要求の増大に伴い電源回路設計の変更を余儀なくされています。



1-5. トレックスの提供価値（3/4）

- 当社は、営業・開発・製造が三位一体となったソリューションサービスAnalog Tricier（アナログ・トリシエル）を提供しています。

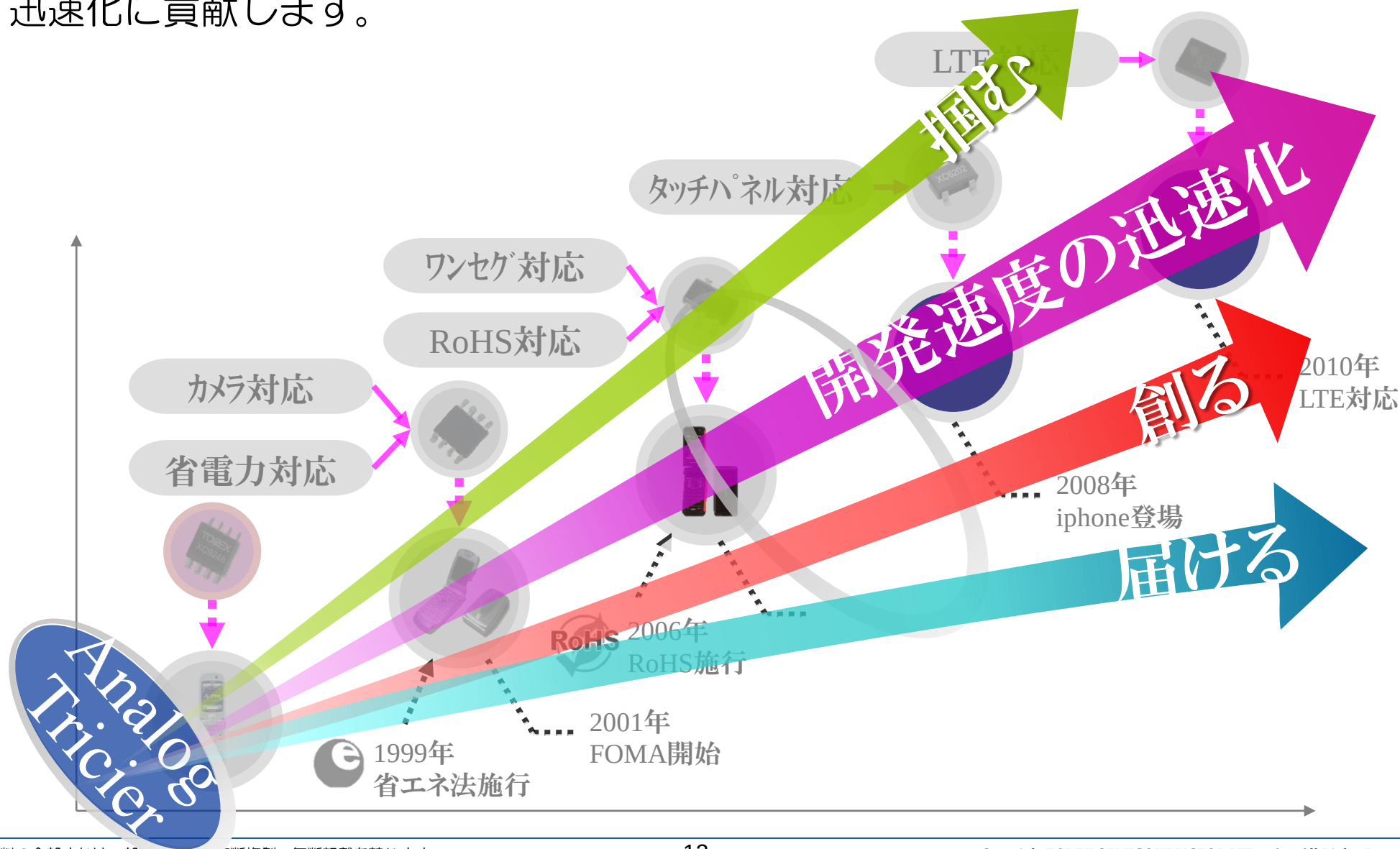


3つの（**Tri**ple）コンシエル
（Con**ci**erge）が一体となったサービス

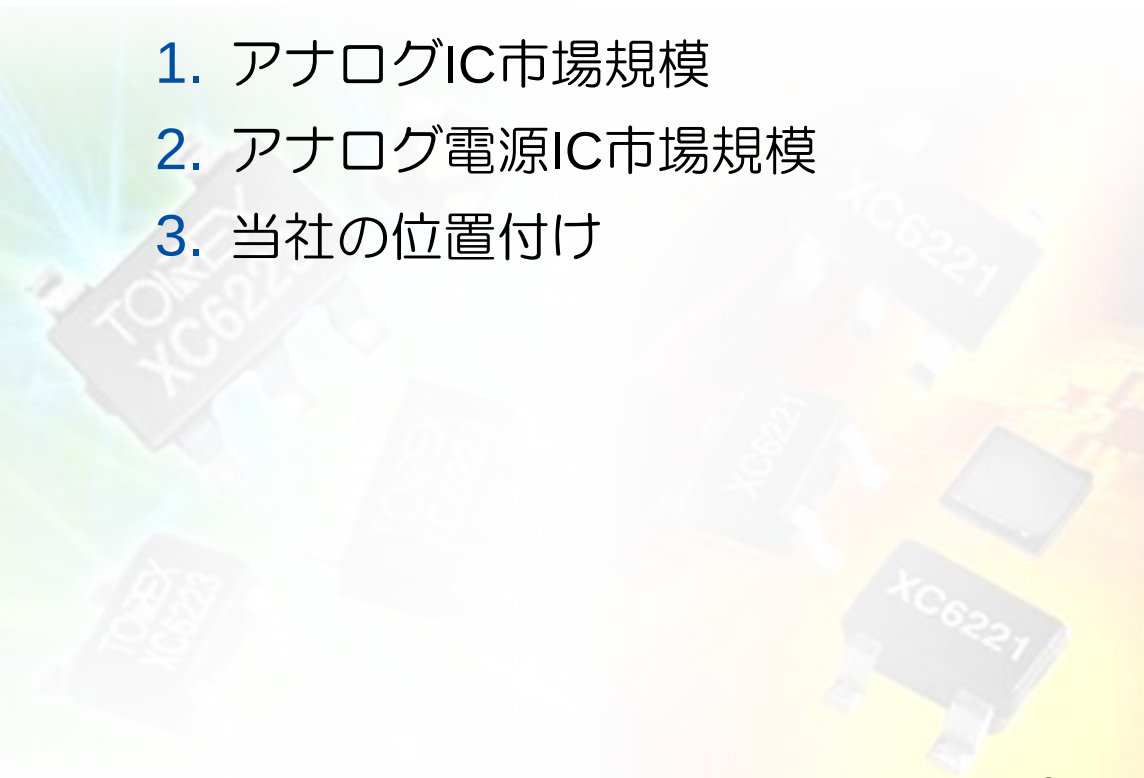
Analog Tricier

1-5. トレックスの提供価値（4/4）

- Analog Tricierでお客さま企業の製品開発を支援し、お客さま企業の開発速度の迅速化に貢献します。



2. 市場動向

- 
- 1. アナログIC市場規模
 - 2. アナログ電源IC市場規模
 - 3. 当社の位置付け

1

会社概要

2

市場動向

3

2015年3月期 2Q 業績

4

2015年3月期 通期予想

5

今後の経営計画

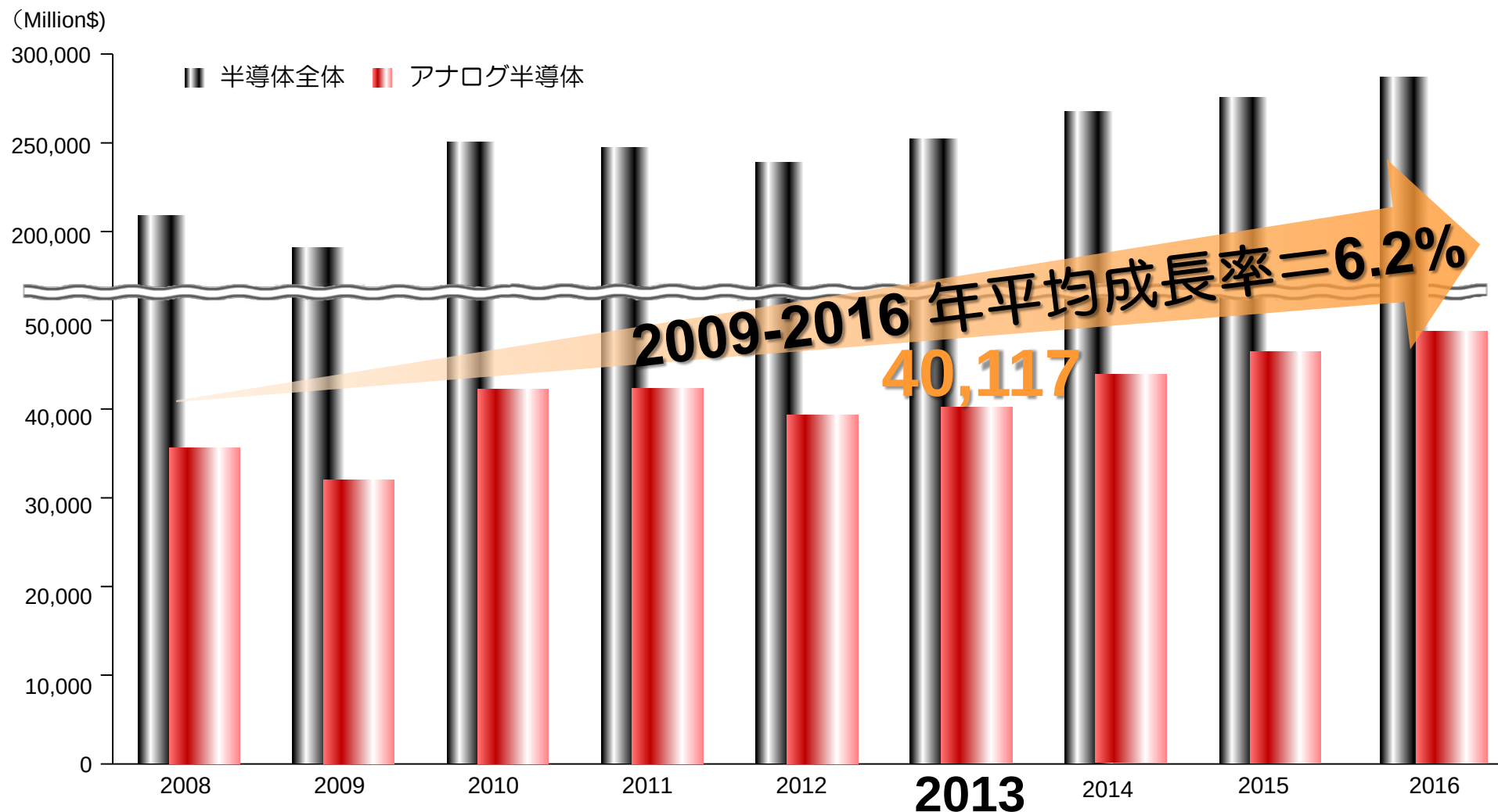
6

還元方針

2. 市場動向

2-1. アナログIC市場規模

- アナログICは4兆円市場（2013年時点）で、現在も拡大基調にあります。

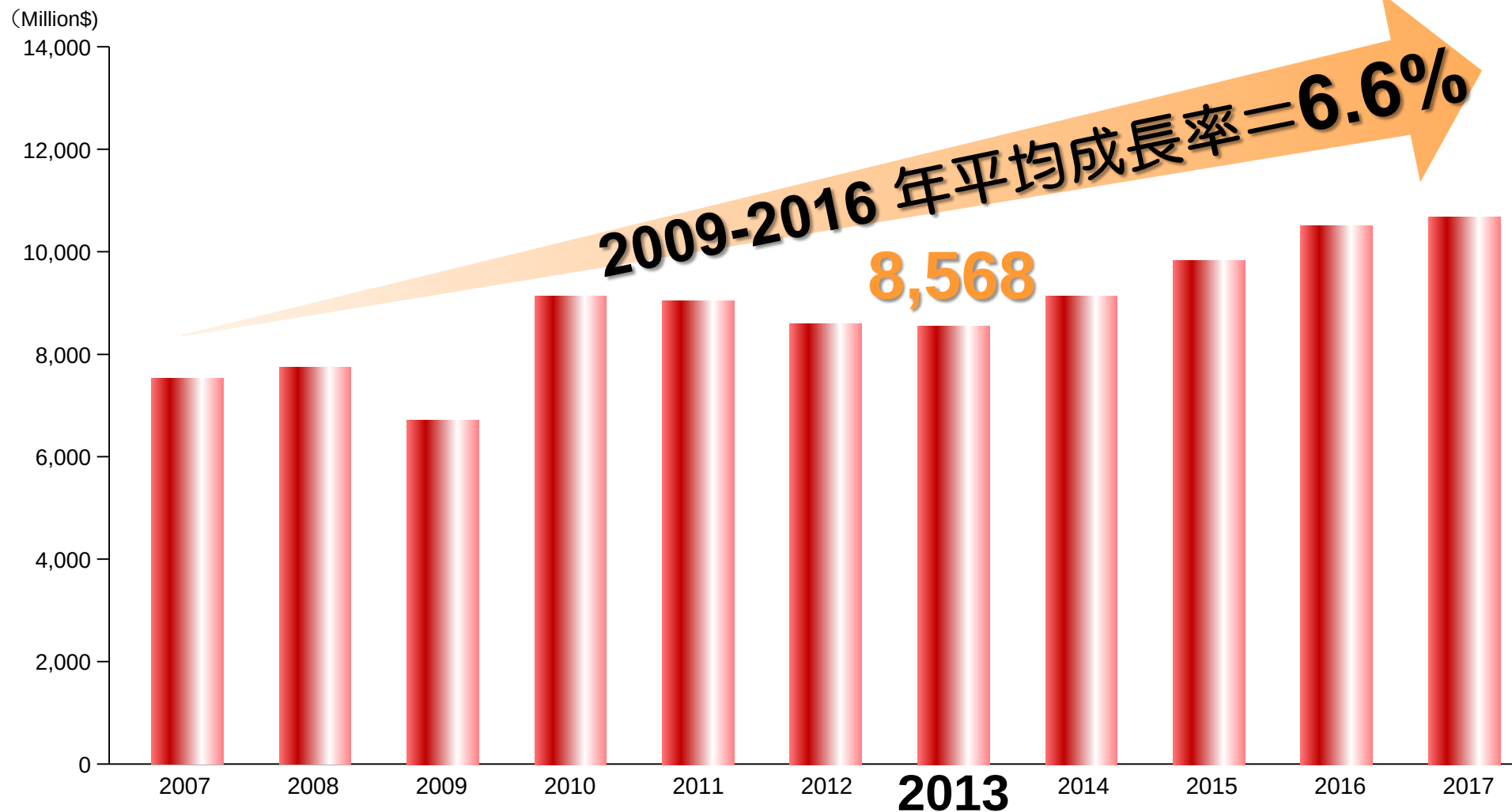


【出典】WSTS 2014年春季半導体市場予測

2. 市場動向

2-2. アナログ電源IC市場規模

- アナログ電源ICは、半導体全体の中でも成長率の高い8,600億円市場（2013年時点）です。

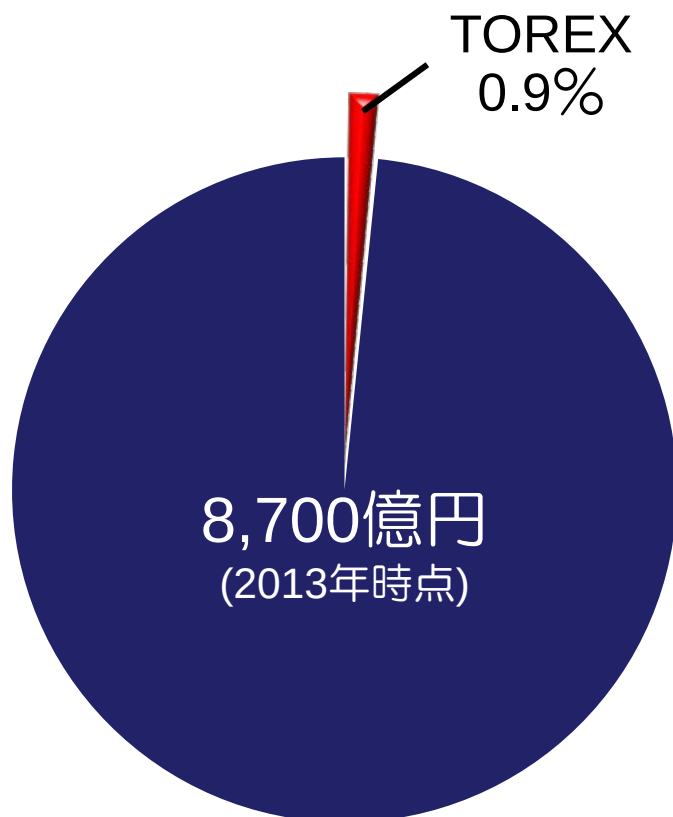


【出典】IHS Global株式会社調べ（2014年）

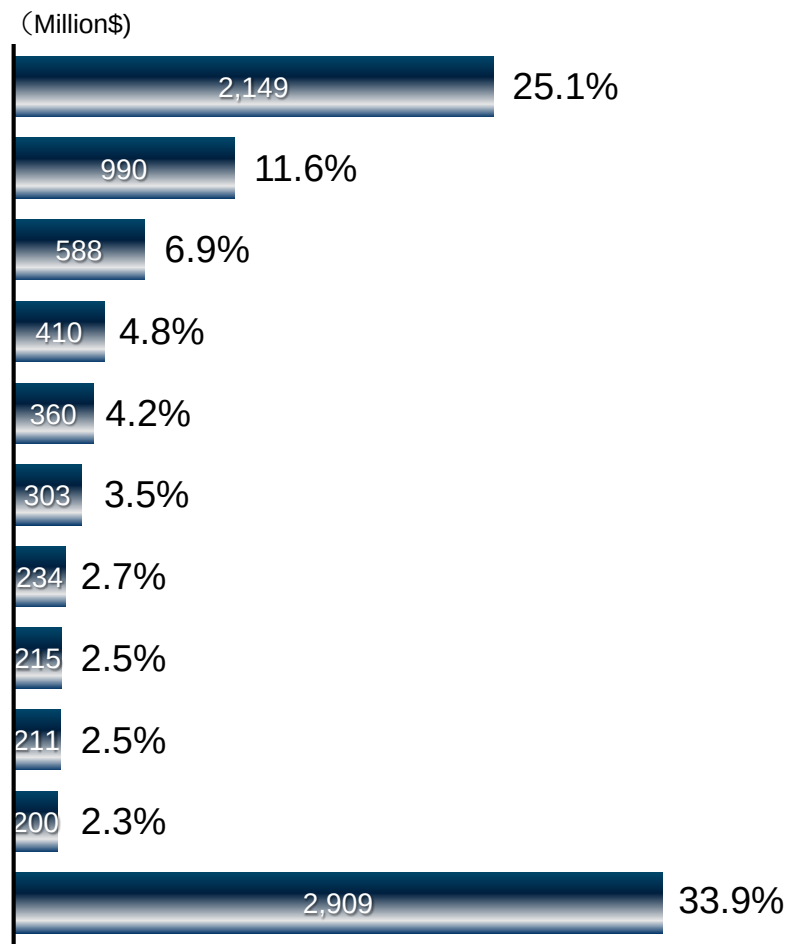
2. 市場動向

2-3. 当社の位置付け

- 他寡占市場等と比較して、絶対的な強者は存在せず市場占有率拡大の余地は大きいと考えています。

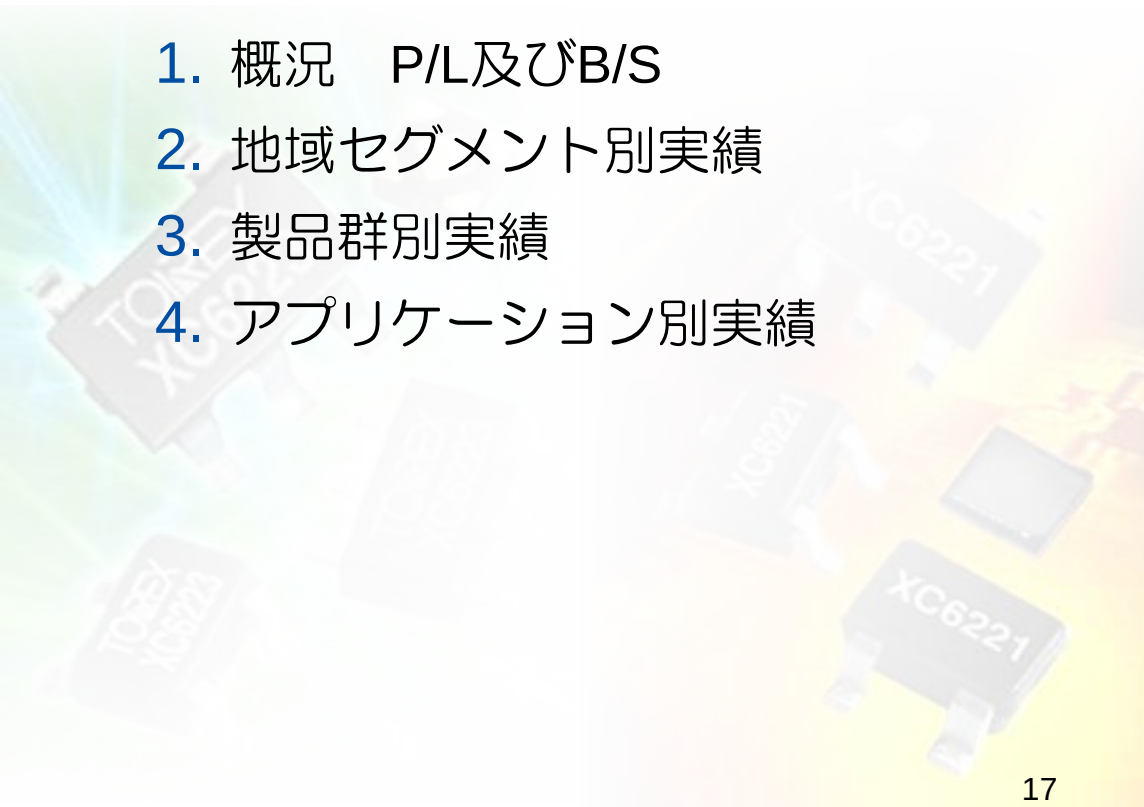


Texas Instruments
Maxim Integrated
Linear Technology
ST Microelectronics
ON Semiconductor
Power Integrations
Intersil
Ricoh
Richtek Technology
Fairchild Semiconductor
Others



【出典】IHS Global株式会社調べ（2013年）

3. 第20期（2015年3月期）2Q 業績

- 
- 1. 概況 P/L及びB/S
 - 2. 地域セグメント別実績
 - 3. 製品群別実績
 - 4. アプリケーション別実績

1	会社概要
2	市場動向
3	2015年3月期 2Q 業績
4	2015年3月期 通期予想
5	今後の経営計画
6	還元方針

3. 第20期（2015年3月期）2Q業績

3-1-1. 概況：P/L

- 国内・アジアの民生機器向けの売上が予想を下回りました。
- 為替レートが想定よりも円安となったため差益が発生しました。

(単位：百万円)

科目	前年同期	第20期 上期実績	対前年 増減率(%)	第20期 上期予想	対計画 増減率(%)
売上高	4,615	4,766	+3.3	4,900	▲2.7
営業利益	685	569	▲16.9	640	▲11.1
経常利益	575	663	+15.3	610	+8.7
当期純利益	502	426	▲15.1	390	+9.2
平均為替 レート(1\$=)	¥98.0	¥102.5	—	¥100.0	¥100.0
営業利益率	14.8%	11.9%	▲2.9 (ホ°ｲﾄ)	13.1%	▲1.2 (ホ°ｲﾄ)
海外売上高 比率	70.8%	69.9%	▲0.9 (ホ°ｲﾄ)	—	—
減価償却費	220	183	▲16.8	—	—
設備投資	126	187	+48.4	—	—

3. 第20期（2015年3月期）2Q業績

3-1-2. 概況：B/S

- 株式上場に際して新株式を発行いたしました（払込金額1,610百万円）。

(単位：百万円)

科目	前年度末 実績	第20期 9月末実績	増減率 (%)
流動資産	9,410	10,245	+8.9
固定資産	1,390	1,785	+28.4
資産計	10,800	12,030	+11.4
流動負債	2,413	1,609	▲33.3
固定負債	482	448	▲7.1
負債計	2,895	2,058	▲28.9
純資産合計	7,904	9,972	+26.2
負債純資産計	10,800	12,030	+11.4

科目	前年度末 実績	第20期 9月末実績
有利子負債 (百万円)	1,229	162
自己資本比率 (%)	72.9	82.6
D/Eレシオ	0.16	0.02
従業員数	329	351

3. 第20期（2015年3月期）2Q業績

3-2. 地域セグメント別実績

- 国内・欧米は増収、アジアは日系企業様向け売上が想定よりも低調でした。

(単位：百万円)

(単位：百万円)	前年同期			第20期 上期実績			前年同期比		
	売上高	営業利益	D-in 売上高	売上高	営業利益	D-in 売上高	売上高	営業利益	D-in 売上高
日本	1,347	640	2,082	1,437	524	2,123	106.7%	81.9%	102.0%
アジア	2,744	44	1,506	2,687	53	1,476	97.9%	120.5%	98.0%
欧州	275	9	625	329	1	790	119.6%	7.0%	126.5%
北米	248	6	402	313	4	377	126.2%	69.3%	93.7%
連結計	4,615	685	4,615	4,766	569	4,766	103.3%	83.1%	103.3%

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高

当社の製品を搭載した製品が企画・設計され。実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高。

3. 第20期（2015年3月期）2Q業績

3-3. 製品群別実績

- 主要製品群の売上は前年比プラスでした。
- DC/DCコンバータ、一部ディスクリートの売上が想定よりも低調でした。

(単位：百万円)		前年同期		第20期上期実績		前年同期比	
		売上高		売上高		売上高	
VR	日本	2,324	593	2,396	598	103.1%	100.8%
	海外		1,731		1,798		103.9%
VD	日本	820	241	886	278	108.0%	115.4%
	海外		579		609		105.2%
DC/ DC	日本	1,037	371	1,086	433	104.7%	116.7%
	海外		666		653		98.0%
その他	日本	434	121	398	128	91.7%	105.8%
	海外		313		270		86.3%
連結合計		4,615		4,766		103.3%	

3. 第20期（2015年3月期）2Q業績

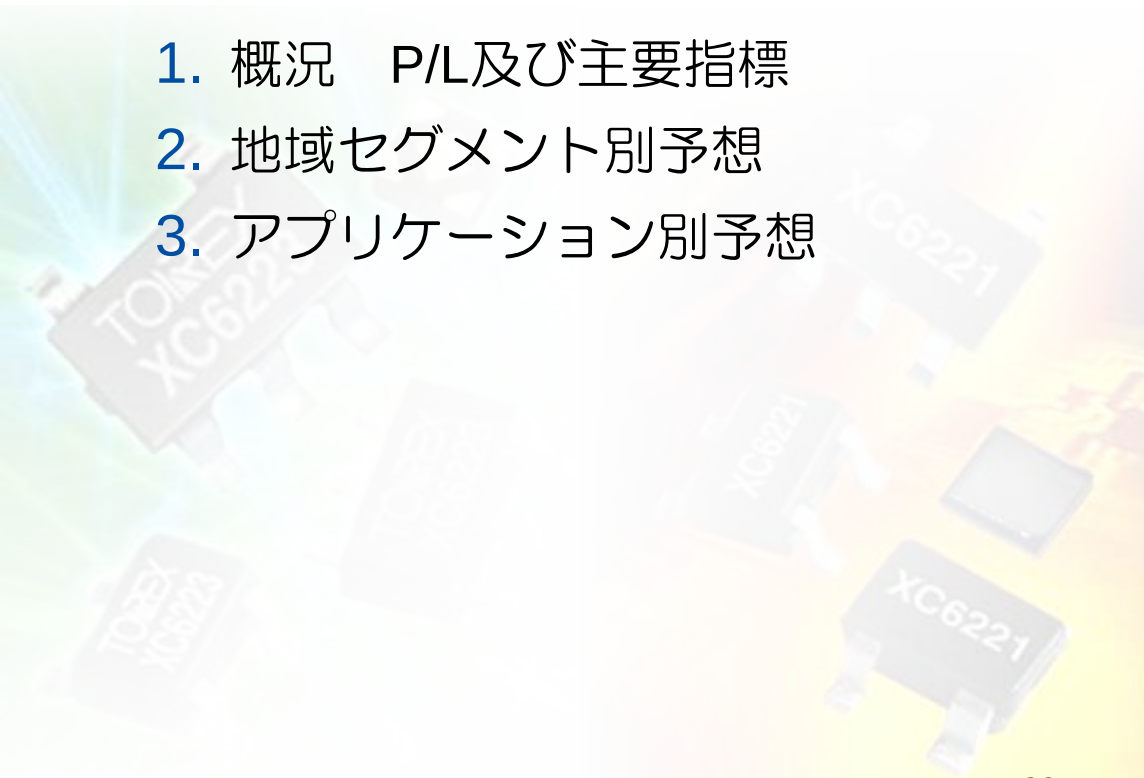
3-4. アプリケーション別実績（参考値）

- 産業機器、車載機器向けの売上構成比が引続き上昇傾向です。

(単位：百万円)		前年同期		第20期上期実績		前年同期比
		売上高	比率	売上高	比率	売上高
IND	産業機器	949	20.6%	1,187	24.9%	125.1%
CAR	車載機器	417	9.0%	516	10.8%	123.7%
AMU	アミューズメント機器	89	1.9%	69	1.4%	77.5%
PC	PC/PC周辺機器	640	13.9%	654	13.7%	102.2%
COM	コミュニケーション機器	304	6.6%	355	7.4%	116.8%
AV	デジタル家電機器	878	19.0%	862	18.1%	98.2%
ENE	充電機器	62	1.3%	25	0.5%	40.3%
HOM	家電/健康機器	296	6.4%	349	7.3%	117.9%
MED	医療機器	25	0.5%	39	0.8%	156.0%
OTHER	その他機器	954	20.7%	710	14.9%	74.4%

注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

4. 第20期（2015年3月期）通期予想

- 
- 1. 概況 P/L及び主要指標
 - 2. 地域セグメント別予想
 - 3. アプリケーション別予想

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 会社概要 |
| 2 | 市場動向 |
| 3 | 2015年3月期 2Q 業績 |
| 4 | 2015年3月期 通期予想 |
| 5 | 今後の経営計画 |
| 6 | 還元方針 |

4. 第20期（2015年3月期）通期予想

4-1. 概況：P/L及び主要指標

- 下期の想定為替レート（ドル円）は108.00です。

(単位：百万円)

科目	前年同期	第20期 通期予想	対前年 増減率(%)	第20期 前回予想	対前回予想 増減率(%)
売上高	9,390	9,900	+5.4	10,400	▲4.8
営業利益	1,414	1,420	+0.4	1,500	▲5.3
経常利益	1,339	1,500	+12.0	1,500	0
当期純利益	1,357	1,100	▲18.9	1,100	0
平均為替 レート(1\$=)	¥99.7	¥105.38	—	¥100.0	—
営業利益率	15.1%	14.3%	▲0.8 (ホ° イト)	14.4%	▲0.1 (ホ° イト)
海外売上高 比率	70.5%	71.4%	+0.9 (ホ° イト)	—	+ (ホ° イト)
減価償却費	468	395	▲15.6	—	—
設備投資	266	848	+218.8	—	—
ROE	19.1%	12.0%	▲7.1 (ホ° イト)	—	—

4. 第20期（2015年3月期）通期予想

4-2. 地域セグメント別予想

- 上期実績を踏まえて国内・アジア等の見直しを見直しました。

(単位：百万円)

(単位：百万円)	前年同期			第20期 通期予想			前年同期比		
	売上高	営業利益	D-in 売上高	売上高	営業利益	D-in 売上高	売上高	営業利益	D-in 売上高
日本	2,768	1,293	4,258	2,835	1,280	3,900	102.4%	99.0%	91.6%
アジア	5,518	90	3,031	5,690	120	4,000	103.1%	133.3%	132.0%
欧州	599	15	1,370	740	10	1,300	123.5%	66.7%	94.9%
北米	506	6	732	635	10	700	125.5%	166.7%	95.6%
連結計	9,390	1,414	9,390	9,900	1,420	9,900	105.4%	100.4%	103.3%

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高

当社の製品を搭載した製品が企画・設計され。実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高。

4. 第20期（2015年3月期）通期予想

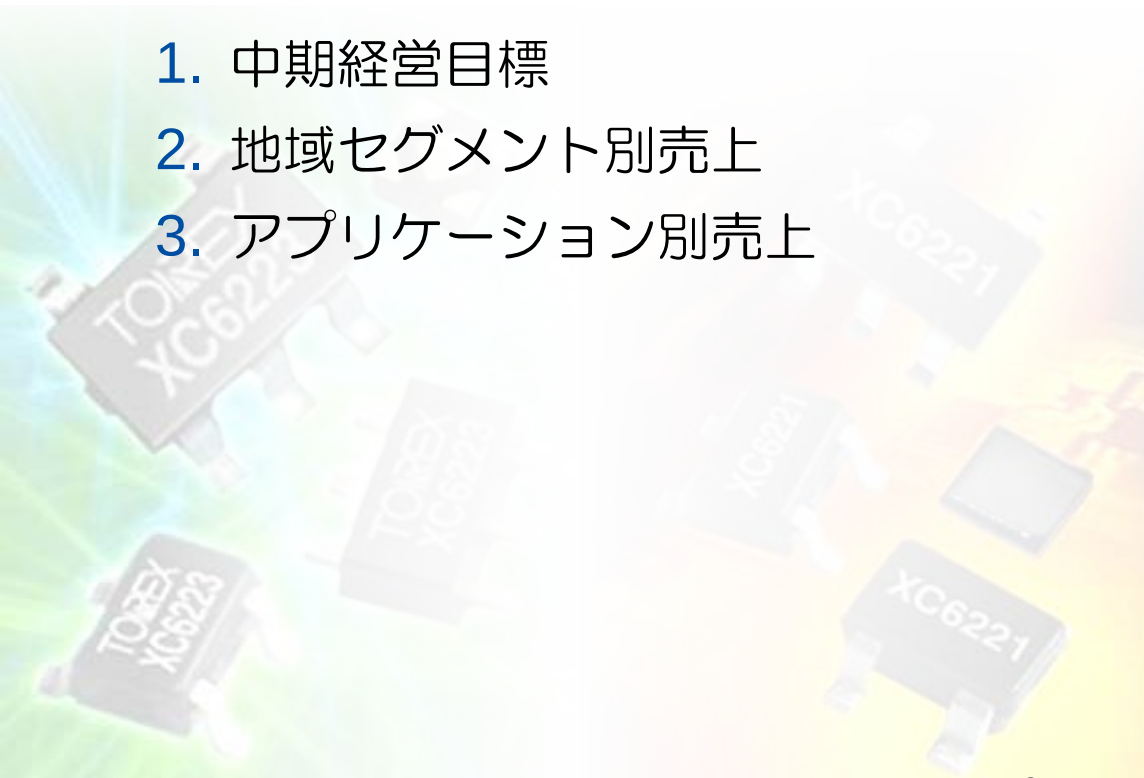
4-3. アプリケーション別予想（参考値）

- 産業機器、車載機器向けの売上構成比は実質4割程度となりそうです。
- ウェアラブル機器は来期に向けて期待するアプリケーションです。

(単位：百万円)		前年同期		第20期通期予想		前年同期比
		売上高	比率	売上高	比率	売上高
IND	産業機器	1,975	21.0%	2,570	26.0%	130.1%
CAR	車載機器	1,006	10.7%	1,100	11.1%	109.3%
AMU	アミューズメント機器	164	1.7%	130	1.3%	79.3%
PC	PC/PC周辺機器	1,356	14.4%	1,310	13.2%	96.6%
COM	コミュニケーション機器	623	6.6%	730	7.4%	117.2%
AV	デジタル家電機器	1,736	18.5%	2,030	20.5%	116.9%
ENE	充電機器	98	1.0%	60	0.6%	61.2%
HOM	家電/健康機器	679	7.2%	730	7.4%	107.5%
MED	医療機器	56	0.6%	90	0.9%	160.7%
OTHER	その他機器	1,697	18.1%	1,150	11.6%	67.8%

注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

5. 今後の経営計画

- 
1. 中期経営目標
 2. 地域セグメント別売上
 3. アプリケーション別売上

1

会社概要

2

市場動向

3

2015年3月期 2Q 業績

4

2015年3月期 通期予想

5

今後の経営計画

6

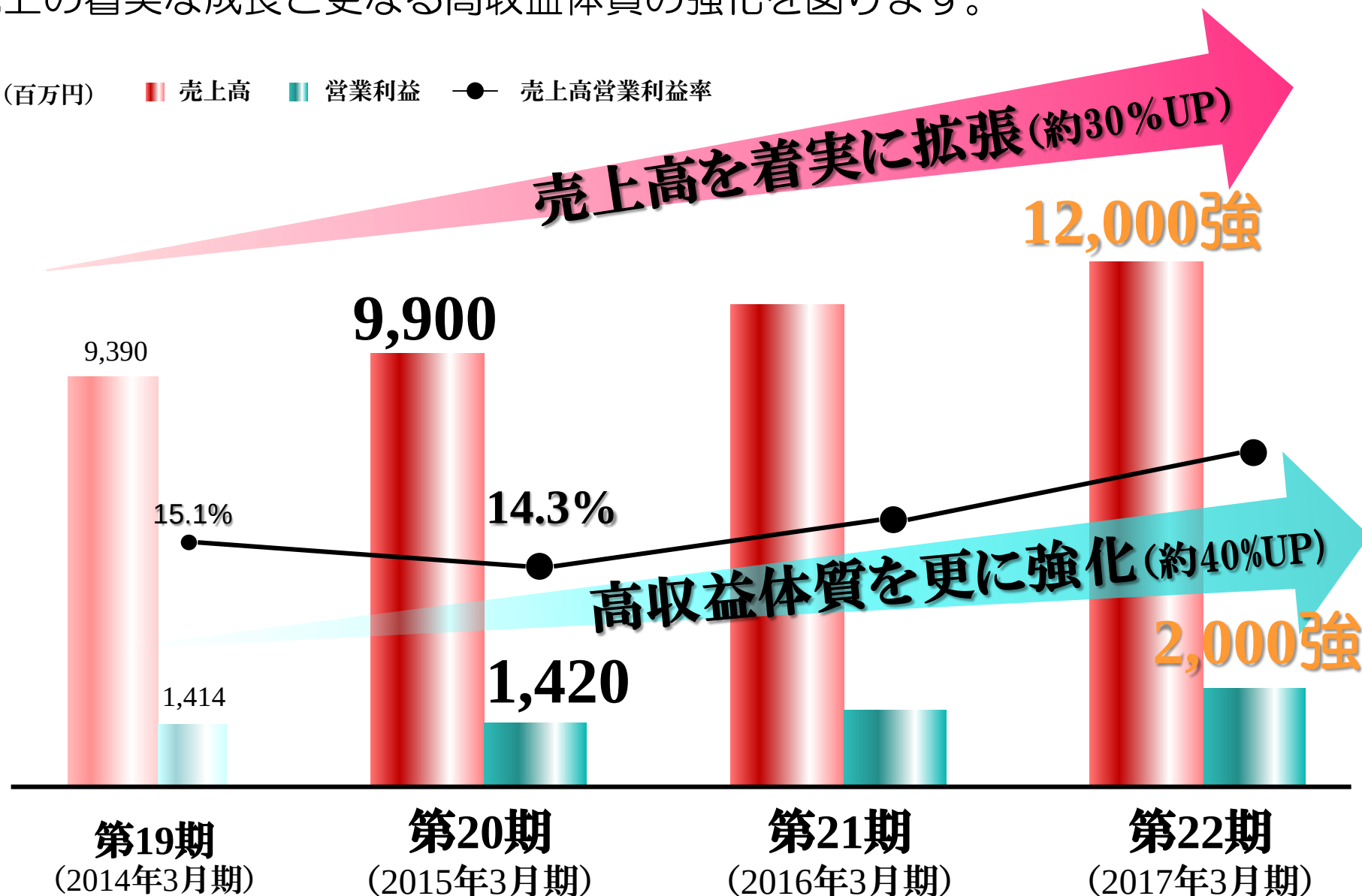
還元方針

5. 今後の経営計画

5-1. 中期経営目標

- 売上の着実な成長と更なる高収益体質の強化を図ります。

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 ● 売上高営業利益率



5. 今後の経営計画

5-2. 地域セグメント別売上

- 各地域の特性や営業人員等の状況に応じた拡販戦略を展開します。

Europe

百万円

599

38% UP



IND
産業機器



OTHERS
ウェアラブル機器等

Japan

百万円

2,768

56% UP



IND
産業機器



CAR
車載機器

Asia

百万円

5,518

20% UP



IND
産業機器



PC
PC、PC周辺機器

North America

百万円

506

54% UP



IND
産業機器



OTHERS
ウェアラブル機器等

5. 今後の経営計画

5-3. アプリケーション別売上

- 産業／車載／医療／ウェアラブル機器等を中心に売上・利益拡大を目指します。

IND:産業機器

CAR:車載機器

AMU:アミューズメント機器

PC:PC、PC周辺機器

COM:コミュニケーション機器

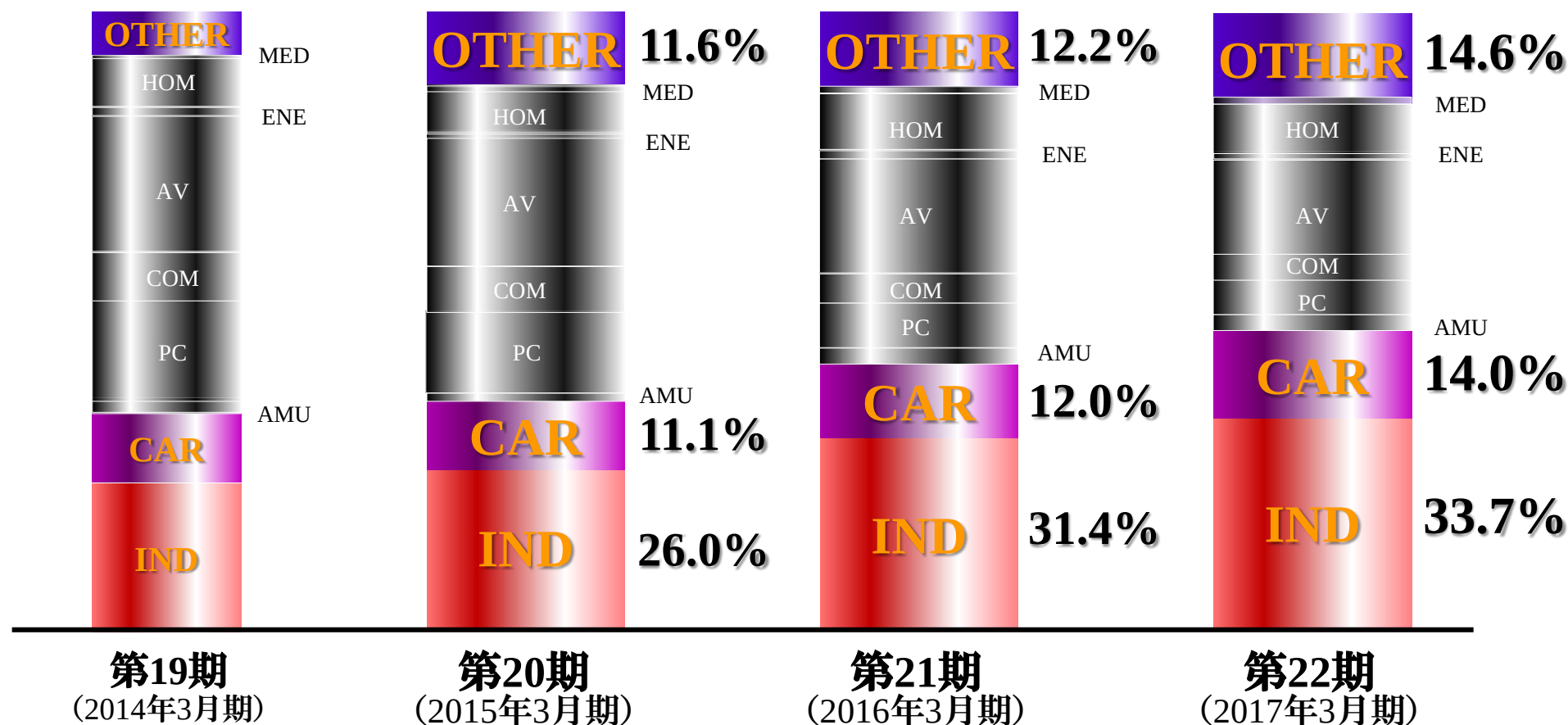
AV:デジタル家電機器

ENE:充電機器

HOM:生活家電・健康機器

MED:医療機器

OTHER:その他(ウェアラブル機器等)



5. 今後の経営計画

5-4. 主な取組み方針

- ターゲットアプリケーションに対応した開発・販売方針を打ち出していきます。

ターゲット アプリケーション	主な取組み方針
IND 産業機器	A) <u>中高耐圧製品ラインアップ強化</u> ■ 既存VR製品の中高耐圧対応と中高耐圧対応DC/DCの新規開発を推進 B) <u>スマートメータ市場攻略</u> ■ アジア、欧州、北米でのスマートメータ市場攻略を推進
CAR 車載機器	A) <u>車載規格対応</u> ■ 車体本体での採用を目指し、高信頼性が求められる車載規格対応製品の開発を推進 B) <u>カーナビ、モニタカメラ、オーディオ市場攻略</u> ■ 日本メーカーを中心に既存顧客深耕、新規顧客開拓を推進
MED 医療機器	A) <u>ノイズ対応</u> ■ 高周波ノイズ抑制対応製品の開発を促進 B) <u>血圧計、血糖値計市場攻略</u> ■ 日本、アジアでの攻略を推進
OTHER ウェアブル機器等	A) <u>DC/DC、XCLラインアップ強化</u> ■ ウェアラブル機器での採用を見越した更なる小型・省電力製品の開発を推進 B) <u>ウェアラブル機器市場攻略</u> ■ 北米、欧州を中心にワールドワイドでの攻略を推進

6. 還元方針

- 1. 基本方針
- 2. 配当額と配当性向

1 会社概要

2 市場動向

3 2015年3月期 2Q 業績

4 2015年3月期 通期予想

5 今後の経営計画

6 還元方針

6-1. 基本方針

- ① 業績に連動した利益還元を目指します
- ② 配当性向年間20%以上の実現継続を目指します
- ③ 中期経営計画の達成による
中期的な企業価値の向上を目指します

6. 還元方針

6-2. 配当額と配当性向

- 株主のみなさまへの利益還元に向けて増配を実施させていただきます。

1株当たり配当金			
基準日	第2四半期末	期末	年間
前期実績	0円00銭	40円00銭	40円00銭
配当予想	50円00銭 (普通配当 40円00銭) (記念配当 10円00銭)	50円00銭 (普通配当 40円00銭) (記念配当 10円00銭)	100円00銭 (普通配当 80円00銭) (記念配当 20円00銭)

● 出展報告



26th International Trade Fair for Electronic Components, Systems and Applications
Messe München, November 11 – 14, 2014

- 開催期間：2014/11/11-14（総来場者数：73,000人以上、出展者数2,737社：50カ国以上からの参加）
※数字はelectronicaホームページから参考記入
- ビジネスコンタクト先入手数：450件
- メディア取材対応：ヨーロッパメディア(3件)、USメディア(3件)、日本メディア(3件)



● Torexブース



- 来場者の関心が高かった
コイルー体型micro DC/DC

● 出展報告



26th International Trade Fair for Electronic Components, Systems and Applications
Messe München, November 11 – 14, 2014

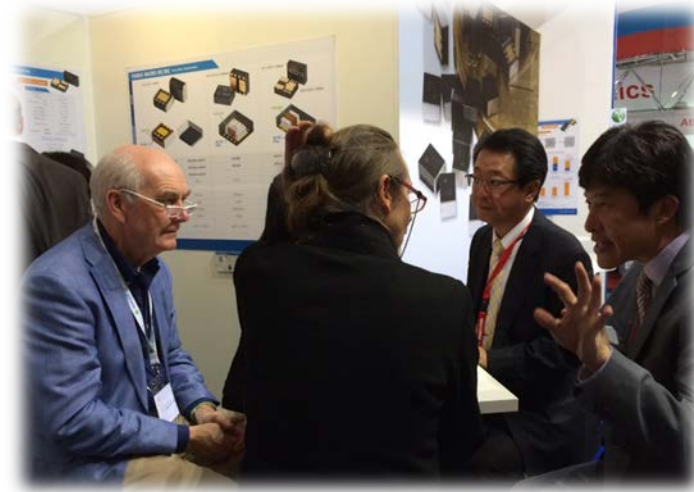


● コイル一体型micro DC/DC 製品展示パネル

来場者の大半が関心を示し、サンプル希望者も多かった。今後のビジネスチャンスの可能性は大きい。



● 来場者へのプレゼント 光るヨーヨー



● 現地ドイツメディア取材の様子

Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること

速やかな本則市場への移行を目指し、
みなさまのご期待に沿える経営を志向し続けます。



本資料に記載された内容は、2014年11月18日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。